

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572207496号
法人名	ユウゲンガイシャ 株式会社 まつかさ園
事業所名	グループホームまつかさ園
所在地	能代市二ツ井町字下野家後95-19 (電話) 0185-71-0087
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成20年12月10日

【情報提供票より】 (平成20年11月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 1 日
ユニット数	2 ユニット   利用定員数計 18 人
職員数	18 人 (常勤 15 人 非常勤 3 人 常勤換算 8.4 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	600 円	その他の経費(月額)	円
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 含む 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.1 歳	最低 68 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	荒谷病院
---------	------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

民家が隣接する住宅地にあり、家庭的な雰囲気を大切にして家庭の延長として暮らすことを念頭に置き、利用者の行動障害を受け止めることを理念に掲げ、2つのユニットが協力しながらケアにあたっている。  
また、敷地には花壇や畑があり、野菜の収穫を楽しみにしているほか、隣接する保育園児の遊ぶ姿や声を利用者の楽しみとなり良い刺激にもなっている。  
また、管理者がリーダーシップを発揮して様々な取り組みに反映させ、困難事例があれば行政や地域包括支援センターと連携し、管理者と職員間でも連携しながら利用者一人ひとりに合ったケアの実践に努めている。  
さらには、帰宅願望のある方にはタクシー会社と連携して自宅とホームを往復してもらうなど、利用者の思いを尊重したうえで安心・安全な支援方法を工夫している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 行政の基本健診について、圏域の協議会で検討のうえ共通認識を図り、結核予防のため胸部写真を撮っている。 また、栄養士によるカロリー計算や献立への指導・助言により、適切に利用者の栄養を管理している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が評価の意義を職員に説明し、全職員で自己評価を行っているが、評価項目の理解不足がみられるため、職員間で共通認識のうえ、より効果的な評価となるよう今後の取り組みに期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2か月に一度開催しており、家族会の開催や災害時のヘルメット設置などの提案に基づき、実現に向けて検討している。 また、水害の教訓を生かし、会議で検討のうえ地域住民の協力を得ながら避難訓練を実施している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見や要望等を把握するため玄関に意見箱を設置し、口頭での意向確認や苦情対応の仕組みを説明して実践に生かしている。 また、利用者の状況を「広報まつかさ園」のほか電話や訪問時にも伝え、積極的な情報提供により家族の不安解消に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会への入会を申請しており、近隣福祉施設の夏祭りや保育園の納涼会、地域の盆踊りなどに積極的に参加しているほか、地域の方々が野菜を持って立ち寄り、散歩時には気軽にあいさつを交わすなど日常的に地域と関わるよう支援している。

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
<b>1. 理念と共有</b>								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念	運営推進会議等で認知症ケアの拠点に多くの住民が関わって認知症のサポートとなり地域で自分らしく暮らしている支援を基に理念をつくり取組んでいる。			利用者のペースに合わせたケアを行い、行動障害を受け止めることを開設時からの理念として掲げ、それぞれのユニットで共有している。	○	開設時からの理念を掲げているが、地域密着型の事業所として、新たにユニットごとに職員全員で理念を検討することが望まれる。
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営推進会議等で認知症のケアに多くの地域住民が関わり、地域に密着した支援を理念とし取組んでいる。					
2	2	○理念の共有と日々の取り組み	認知症高齢者グループホームに関わる法令を理解し理念の実践に向けて、運営者、職員等日々に取り組んで行っている。			理念を事務室に掲示し、管理者が職員会議などで職員に伝えるなどして理念の共有と実現に努めている。	○	新たな理念の検討に合わせて、ユニットごとに理念の周知・共有とともにケアへの反映を期待したい。
		運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	グループホームの理念を良く理解し、常に念頭に入れながら、よりよいケアサービスをしていただくためには、どのようにしていくかを検討しお互いの意見を尊重しあい、前向きな姿勢で話し合っている。					
3	3	○家族や地域への理念の浸透	市役所、地域包括支援センター、民生委員、近隣住民、入居者の家族等運営推進会議に参加、契約時説明により理解していただきながら取組んでいる。					
		事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取組んでいる	市役所や地域包括支援センター、民生委員、近隣住民、利用者の家族等に運営推進委員会に参加していただき理解を得よう取組んでいる。					
<b>2. 地域との支えあい</b>								
4	4	○隣近所とのつきあい	事業所も地域住民も一員となって地域に溶けこみ違和感を感じさせないよう気軽に立ち寄ってもらう家庭的雰囲気づくりで日常的に付き合いを行っている。					
		管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営推進会議等に近所の方々にも参加していただき、気軽に日常の会話やホームに関して聞きたい事等、話し合い気軽に付き合えるよう努めている。					
3	5	○地域とのつきあい	行事・地域活動・自治会等に参加、地元の人々と声をかけ合い地域の一員として交流に取り組んでいる。			自治会への加入を申請しており、特養の夏祭りや保育園の納涼会、地域の盆踊りなどに積極的に参加している。 また、大正琴のボランティアを呼んだり、地域の方が立ち寄って野菜をくれることもあり、散歩時には挨拶を交わすなど日常的に交流している。	○	地域の方が参加できる行事などを企画し、地域への開放を目指して積極的に取り組むことを期待したい。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	他施設の行事、地域ケア会議等にも参加し、地元の人々との交流機会を設けている。					
6	6	○事業所の力を活かした地域貢献	運営推進会議等で事業所の支援状況、困難事例等を話し合いにより地域の高齢者の暮らしに役立つ話し合いを行っている。					
		利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取組んでいる	運営推進会議等で利用者への支援の状況等を議題にあげ、地域の高齢者の暮らしに役立つ事がなく話し合い取組んでいる。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の概要、要改善等を見直し会議で話し合い実施される意識を理解しながら、ワムネットを公開されたりにより改善の取り組みに活用されている。			○	前回評価結果を職員会議で報告し、改善点は全職員で検討して改善につなげている。 また、管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員が自己評価を記入するなど理解に努めている。	すべての職員が自己評価・外部評価項目の意図を理解しているわけではないため、項目の理解により、さらに効果的な評価となるよう取り組むことを期待したい。
			評価された事項を良く理解し、要改善等を見直し、業務に活かしながら良い改善策を見出していく。					
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回利用者実際サービスの評価等を話し合い参加者から意見を取り組んで地域と連携しサービスの向上に取り組んでいる。				2か月に一回開催しており、家族会の開催や災害時のヘルメット設置などの意見に基づき、実現に向けて取り組んでいる。 また、会議での提案により、避難訓練を地域住民の協力を得ながら実施している。	
			運営推進会議で話し合われた事を活かしながら、日常のサービス向上に取り組んでいる。					
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス等での相談時は、直接市役所の担当者に出向き話し、機会を作りサービスの質の向上に取り組んでいる。				行政担当者には利用者の困難事例などあれば相談しており、軽易な事故などはホーム内で検討し、結果を行政に報告するなど行政との連携を心がけている。	
			近隣の人達にも行事等に参加してもらえるよう呼びかけるとともに、町の行事（夏祭り、盆踊り）にも参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。					
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員等は、権利擁護事業を理解し当ホームでも利用者がおり生活支援の業務、研修会への参加、地域福祉権利擁護事業のサービスの流れ等を理解により活用出来るように支援を行っている。					
			研修、会議等に参加し、知識は身に付けているも今現在該当者はおらない。					
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待には、言葉の虐待等も含まれることを話し合い、身体行動、表情面を注目されながら早期発見に努めながら取り組んで行っている。					
			会議等で話し合い、常にそのような事はないよう意識して日常のケアに関わり、言葉の暴力等、虐待防止に努めている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価				
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>										
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は利用者、家族等の不安、疑問点を気軽に開けるように配慮を図り、文章、口頭等で十分説明を行い理解、納得を出来る様に行っている。								
		入所時に契約書を使用し、十分な説明を行っている。その際、不安や疑問、意見なども聞くよう取り組んでいる。退去の際も十分に説明し納得を得ている。								
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、不満、苦情等を気軽に職員外部に話し出来る様に配慮、職員会議時、利用者に気軽に意見等を述べられるように、運営反映に取り組んでいる。								
		受け付ける職員を決め、明示し玄関に意見箱を設置している。今までの所、意見箱への投書はみられていない。								
7 14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に利用者の日常の様子、受診後の結果等を面会時写真を見せたり、お便り発行送付電話により定期的に職員の異動時、面会、入金時報告に取り組んでいる。			○	異動については家族には報告しておらず、今後取り組んでいきたい	○	ユニット毎に「広報まつかさ園」を発行して利用者の生活の様子や行事などを伝えているほか、面会時や電話などでも状況を報告している。また、遠方の方にも電話などで伝えており、利用者の状況に変化があれば随時報告している。	○	利用者の日々の様子が具体的に把握できるよう広報の内容を充実させるとともに、職員の異動についても家族に伝えることが望まれる。
		家族の訪問時、電話の際には生活の様子を伝えている。2ヶ月に1回のホーム便りで、行事の写真を送付等を行い、家族への報告へ努めている。								
8 15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気がかりな事や、意見、希望を職員に気軽に口頭で伝えられたり面会時間い合わせたり、玄関に意見書、意見箱を設置、説明、運営の反映に取り組んでいる。					○	○	○	家族会を設置しての意見集約や意見箱の有効活用など、利用者及び家族の潜在的な意向を確認するための取り組みを工夫してほしい。
		13項目と同じであるが、更に2ヶ月に1回の運営推進会議時に持ち回りで家族の方に参加してもらい、援助に活かすようにしている。								
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、又年1～2回個別に意見、提案等を話し機会を設け常に職員の意見を参考にし反映に取り組んでいる。								
		月1回、職員会議を行っている。その中で運営やサービスの向上などへの効果的な意見があれば取り入れ反映させている。								
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者、家族の状況の変化等、状態、生活の流れに合わせてこれに即した職員の確保、勤務ローテーションを取り組んで行っている。								
		通院や行事などに応じて勤務ローテーションを組み、入居者のケアに支障がない様配慮している								

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症の正しい知識を持つ、環境、介護者との関係性が生活影響を与える事を配慮、異動、離職を最小限に抑え利用者へのダメージを防ぐ取り組みを行っている。  特別な事情や希望がなければ異動は行っていない。産前産後、育児休暇、育児時間に配慮し離職を抑える努力をしている。			比較的職員の異動が少ないため、利用者が不穏になることはなく、異動による利用者への影響に対しても認識している。	○	職員の異動や退職を想定し、利用者への影響を最小限に抑えるため、新旧職員と一緒に引き継ぐなど具体的な対策を検討することが望まれる。
<b>5. 人材の育成と支援</b>								
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修の資料を活用し、職員順次受講を行い復命書、会議等で内容をすべての職員に周知、人材の育成に取り組んでいる。  研修等に参加し、その後ホーム内で復命書による発表をしていただき育成に役立てている。			年度初めに年間の研修予定を提示し、職員の参加を促しており、資格取得に関しても支援している。 また、研修参加後は復命書を作成し、職員会議で報告して成果を共有している。	○	職員一人ひとりの経験や職種、希望や目標などに応じて研修計画を立て、計画的に研修参加の機会を確保するとともに、日々のケアを通じて課題を明らかにし、テーマを決めて学び合うなど、内部研修の充実にも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者自身、職員、グループホーム協会、地域同業者と交流、相互訪問等の活動を通してサービスの質を向上させる取り組みを行っている。  グループホーム協議会、地域ケア会議等に参加し、学んで来た事を職員会議で活用し、質の向上に活かしている。			県及び圏域の協議会に加入し、他の事業所を見学したり、地域の事業所が集まって情報交換するなど質の向上に努めている。	○	過去に職員交流を実施したこともあるため、今後も引き続き取り組み、職員のスキルアップとサービスの向上につなげてほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	外部と接する機会、ピア・スーパービジョン等で悩みの聴取により、職員の業務、家族的上の悩みを話されるようにストレスへの軽減に向けて取り組んでいる。  業務以外の話題を取り入れながら良い環境作りに取り組んでいる。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し職員会議等に参加、職員に個別にアドバイス等で各自が向上心を持って働けるように取り組んでいる。  個々に合った研修や資格取得等を促し、向上心を持てるよう働きかけている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>								
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>								
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症を理解し相互に人間性を尊敬、知り合う機会をつくり本人が不安を求めている等、本人自身の表情等から見極める信頼関係に取り組んでいる。						
		常に本人とのコミュニケーションの中で、そのような状況を見出して聞いていく機会を設け解決策にもっていつている。						
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が気軽に訪問でき気を使うことなく話し場づくりと、受け止めることにより信頼関係を築いていく取り組みをしている。						
		利用者の安否の確認時、また計画作成時に不安な事、困っている事がないか聴く機会を設けている						
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の相談上で今必要としている部分を見極め、他のサービスを応用し本人、家族が不安なく今までの生活を維持されるよう取り組んでいる。						
		相談を受けた時はその都度適切な対応に努めている。						
12 26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人が不安なく安心して生活出来るように馴染みある食器等使い慣れた物等を家族と話し合い家庭的な雰囲気を維持し徐々に場に馴染めるよう取り組んでいる。					利用に際して管理者が自宅を訪問し、生活の様子を観察して同じような居室環境づくりに努めている。 また、利用前には見学や宿泊を促し、声かけしながら安心感を与えるなど、できる限り不安を取り除いている。	
		本人の安心感を得られる様、家庭で使用した食器やタンスを家族と相談し持ってきてもらっている。						
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>								
13 27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者主体性を取り、共に過ごし喜怒哀楽を共有し入居者個々の特徴を活かし、入居者から学び、その表情等を見極めながら関係継続への支援に取り組んでいる。					食事の下ごしらえを手伝い、男性職員が料理の方法を学んだり、職員の知らない昔の話を聞いて知識を深めるなど利用者から学ぶ機会も多い。 また、利用者の興味ある話をして上手に笑顔を引き出し、良い関係づくりに努めている。	
		暇を見つけて昔話を聞いたり、一緒に話し合う機会を設け、色々本人から学んでいる事もいっぱいあり、支えあう関係に取り組んでいる。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の立場になり喜怒哀楽を共にし、家族関係を継続し合い家族と一緒に本人を支えていく取り組みをしている。						
		楽しい事、困った事、家族に連絡し共に支援していく体制を取っている。						
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	受診時は、家族と一緒に昼食等、面会時はホームで家族が昼食、お茶等を一緒に、又居室で気軽に過ごされる機会づくり、良い関係の継続に取り組んでいる。						
		面会を呼びかけたり、電話で安否の確認をしたり家族との連携を密にし、よりよい関係を保っている						
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事、買い物等で馴染みの人に会う機会づくり、入居者の言動、笑顔等を引き出せるための言葉かけ、雰囲気づくりを継続し支援に取り組んでいる。						
		外出、受診時、昔の場所を見せたり、受診先で馴染みの人に会った際、じっくり話し合える機会を設けている。						
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者同士が過ごせる配慮と孤立しがちな入居者が交わる機会をつくり世話役の入居者にうまく発揮してもらおう場面をつくり支え合えるよう取る組んでいる。						
		スタッフが仲介役になり、利用者同士が関わり合えるよう支援している。						
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、面会の機会をつくり家族からの相談等を受け、関係継続を大切に取組んでいる。						
		契約が終了しても町で会った際など、退居してからの状況等、雑談的に話し合っている。						
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
<b>1. 一人ひとりの把握</b>								
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとり暮らし方の思いや希望、意向を十分把握し入居者の自由に自分のペースを保ちながらその人らしい暮らしを続けるように、困難時、本人本位に検討されながら取組んでいる。					傾聴を理念に掲げており、口数の少ない方でもその方の性格に合わせて声かけし、利用者の思いや意向を感じ取るよう努めている。 また、コミュニケーションが難しい場合には、身振り手振りで意思の疎通を図り、その日の気分や体調を考慮しながら個別に対応している。
			日常の会話の中や家族の情報から思いや希望を聞き出し、把握に努めている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとり生活歴、本人にとって大切な経験、出来事を知りその人らしい暮らしや尊厳を支えサービス利用の経過等を十分把握されながら行っている。						
		得られた情報を活用しながら毎日の生活の中に取り入れ、生きがいある環境作りに配慮しケアに活かしている。						
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	認知症の人の心理機能の特徴を職員は理解し、心身状態を把握、長期記憶を引き出し見当識の継続のための工夫等を取り入れている。						
		心身の状態を把握しながらその人のあった能力に応じて1日の過ごし方を判断しながらケアにあたっている。						
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き取り入居者主体の目標をたて、入居者一人ひとりの特徴を踏まえ担当者、他の職員、ケアマネジャー等でのチームで今後計画に取り組んでいる。			毎月職員会議を開催し、担当職員と計画作成担当者が連携しながら介護計画を作成している。作成にあたっては、担当者が中心となり利用者及び家族の意向を確認しながら他職員と相談するなどチームで検討している。		
		職員会議、家族の意向、意見等を反映させながら、計画作成にあたっている。						
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員会議等月1回全員の見直しを行い状態変化に応じ本人、家族と話し合い見直し、現状に即した新たなケアプランの作成に取り組んでいる。			状態変化がなければ6か月毎に見直ししており、変化があれば随時対応している。また、見直しに関しても家族の意向を確認し、職員会議で検討している。		
		期間に応じて見直しを行うと共に、状態変化時は現状に応じた見直しを行い、新たな計画を作成している。						
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子等をケアの実践、結果、気づきに個別記録し申し送り等で情報の伝達の確認を行い共有し介護計画の見直しに取り組んでいる。						
		日常の様子を記録に残し、会議等で情報を提案しながら介護計画の見直しを行っている。						
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの機能を入居者のケアに配慮し地域に開放し認知症の理解を図り事業所の多機能性を活かした支援に取り組んでいる。			2ユニットにより地域のニーズに対応し、利用者及び家族の意向に沿って通院を支援している。また、歯科の往診や看護師による医療連携により医療面での支援体制を整えている。		



外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>								
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じフォーマル、インフォーマル、医療機関等のサポートを図りながら支援へ取り組んでいる。						
		民生委員を招き定期的に運営推進会議を開いている。また消防署立ち会いにて消防訓練も行っている。医療機関に関しては一人ひとりに係り付け病院を設け支援している。						
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅介護支援センター、居宅介護支援事業者と情報交換等の連帯を図り施設等の申し込み等の支援を行っている。						
		本人の状態を観察しながら必要に応じて、各関係者と相談し、他のサービスの利用をするための支援を行っている。						
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターからホームの運営推進会議に出席時、地域ケア会議に参加により本人の意向、必要性に応じて困難事例、権利擁護等を相談し、地域包括センターと協働している。						
		必要に応じて地域包括支援センターと相談しながら連携をとっている。今現在、権利擁護を使用している利用者はおらない。						
18 43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望を図り、かかりつけ医等を受診への方針に取り込み往診等も行い適切な医療を受けられるように支援を行っている。					協力病院を確保しているが、意向に沿ったかかりつけ医にも受診して報告を受けているほか、歯科医による往診もある。 また、行政の定期健診については圏域の協議会と相談し、共通認識のうえ年1回胸部写真を撮っている。	
		受診に関しては利用者、または家族と相談のうえ納得のできる適切な医療を受けられるよう支援している。						
44	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診時、認知症に対しての周辺、中核症状、生活障害等を相談しながら日常の健康管理、医療活用の支援を取り組んでいる。						
		主治医と相談しながら日々記録し、その人のあった服薬方法、または治療が受けられるよう支援している。						
45	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	市役所の保健師、訪問調査員の看護師、施設等の看護師と相談しながら日常の健康管理、医療活用の支援を取り組んでいる。						
		キャリアを持つ看護師と24時間連絡体制にあり、気軽に相談でき、常に健康状態に留意している。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価			
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	できるだけ不安なく入院生活のためホームから情報等を説明、早期退院に向けて病院関係者と相談の上で入居者の苦痛の緩和に努め退院指導を受けながら行っている。							
		家族に経過をよく説明し、相談しながら早期退院について家族と医療機関のやりとりが安心かつ、スムーズに行えるよう支援を行っている。							
19 47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に対し受診時変化等主治医に相談、その結果等を家族に連絡、職員全員で方針を共有している。					現在は利用者及び家族の希望がないため、重度化した場合は家族と医師と相談のうえ医療機関に入院している。 また、今後は看取る方向で考えており、そのための体制整備に向けて検討している。		
		病状に合わせて個別に対応している。できる限り本人、家族の希望を取り入れ、医療機関と連携し方針を出している。方針はその都度申し送りをし共有している。							
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	共感的な態度で接し入居者、家族に不安をあたえず安心された暮らしが出来る様に重度化による苦痛の緩和配慮と主治医との連携により入院の必要性、看取りへの検討に取り組んでいる。							
		上記の方針に沿い苦痛の軽減に努めながら、日々の援助を行っていく。状態の悪化や急変時の対応を事前に話し合い備えている。							
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居の前には、入居者が移り住むことのダメージを最小限に食い止めるために本人の係わる関係者と情報交換と話し合いをもち本人への不安の軽減に取り組んでいる。							
		他所へ移り住む際は、本人、家族、関係者に十分な話し合い、説明、またサマリー等を活用しながらダメージ防止策に努めている。							
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>									
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>									
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>									
20 50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを配慮の中で本人の返答能力に応じ否定等なくさりげない介助、言葉かけに取り組んでいる。					利用者のプライバシーに配慮しながら声かけし、食の細かい方には残すことで嫌な思いをさせないよう少なめに盛るなど配慮している。 また、ケース記録に関しては事務所の棚に保管し、ガラス扉を黒く塗って外部から見えないよう工夫している。	○	個人情報の捉え方には職員一人ひとりに個人差があるため、共通認識を持てるよう話し合うとともに、広報等写真掲載への同意も含めて個人情報の取り扱いについて内部で再確認してほしい。
		言葉使いには十分に注意し、一人ひとりの誇り、プライバシーには配慮している。記録、個人情報の取り扱い、管理も徹底している。							

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者とのコミュニケーションが難しい場合でもできる限りその方の要求を聴き出し尊厳の保持に配慮し入居者の力量に合わせた自己決定に取り組んでいる。						
		排泄時、入浴、外出時、一人ひとりにしっかりと声がけ、説明を行い、納得、自己決定できるよう支援している。						
21 52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に自由で自分のペースを保ちながら暮らせるように見守りの中で個々の日々の過ごし方を観察し希望にそった取り組みをしている。			起床時間や食事時間など利用者によって異なるが、無理に起こしたり促すのではなく、利用者の希望を確認しながら対応している。 また、夜眠れない方の就寝リズムや希望の入浴時間など、利用者の状態に応じて支援している。			
		家事手伝い、入浴時間等は利用者一人ひとりのペースに合わせて行っている。外出の希望があれば職員と一緒に外出も行っている。						
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>								
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	生活歴等に合わせた髪形、服装と本人の望む支援、外出時化粧等でおしゃれの記憶を引き出し入居者個々に合わせた理美容室を利用者へ取り組んでいる。						
		外出、入浴の際は、本人の希望に沿って着替えを行っている。理容、美容も本人の希望のお店へ行っていただいている。						
22 54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と会話されながら食事準備、片付け等を行い、同じ食卓にてメニュー、好み等を話談にゆっくと食事を摂取できるように取り組んでいる。			利用者と職員と一緒に食事をとり、必要な方には職員が寄り添い支援しており、献立を話題にしながら楽しい雰囲気づくりに努めている。 また、配膳や片付けを利用者が手伝い、食事量も利用者に合わせているなど配慮している。			
		食事メニューは利用者一人ひとりの希望を取り入れている。野菜切り、テーブルセッティング、盛りつけ、食器拭き等、一人ひとり分担して行っている。						
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の望む物を購入により健康状態を配慮されながら居室でもゆっくと食べられるように取り組んでいる。						
		利用者が好む飲み物、おやつはお茶の時間、入浴後の他に、本人の希望に添って楽しんでいただいている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	一人ひとりの排泄パターン、行動、表情面を把握し失敗やオムツを軽減、排泄の誘導介助を確認、失禁の不安、羞恥心、プライバシーに配慮し気持ち良く排泄できるように取り組んでいる。						
		利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行い、おむつ、尿取りパット等の使用を減らしている。また、誘導の際、声がけにも配慮している。						
23 57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの健康状態、タイミング希望に合わせてくつろいだ入浴ができるよう取り組んでいる。			利用者の希望に合わせて入浴を支援しており、曜日や時間帯、同性介助についても確認している。 また、入浴を拒否する方については、声かけにより入浴を促し、状況に応じて清拭などで清潔保持に努めている。			
		曜日、時間問わず入浴できている。本人からの希望がある場合も無理のないタイミングで入浴を促している。また、入浴前にバイタルチェックを行い健康状態を確認し入浴を支援している。						
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠を考慮の上、昼食後時間を決めて臥床にて心身を休める場面つくりと日中活動度を配慮し夜間への安眠を支えながら取り組んでいる。						
		利用者一人ひとりの生活習慣で就寝されている。また、食後、外出後等、本人の体調を見て休息していただいている。						
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>								
24 59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や一人ひとり意見を尊重し障害への配慮されながら楽しみや、出番を見い出せるように場面づくり等無理にせず気晴らしの支援方向性を行っている。（食事の準備、洗濯物のたたみ、食器拭き等）			利用者一人ひとりの意見を聞き、洗濯物たたみや食器拭きなど役割を見つけ、できる範囲で手伝っている。 また、習字やカラオケ、生け花、買い物などの楽しみ事、誕生会や豆まき、観桜会など季節の行事も行っている。			
		利用者一人ひとりに合わせた役割分担を行っている。また、歌が好きな利用者にはカラオケ等で楽しんでいただいている。習字、生け花を行っている利用者もいる。						
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は入居者がお金を持ち、安心感、何か買いたい気持ちをもたれることを大切に買い物時は見守り中で支払等を行わせ自由性を図っている。管理困難な入居者に対しては欲しい物を聴いて家族と相談の上で行っている。						
		利用者の希望、力に応じてお金を所持し、外出または希望の際は欲しい物が購入できるよう支援している。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
25	61	○日常的な外出支援	見守りの中でホーム内を散歩したり、近くの理美容、買い物等に一緒に出かけ本人の希望に沿って行っている。			レンタカーで花見やドライブに出かけたり、近くのスーパーに買い物に出かけているほか、保育園の花壇を見たり、散歩などにも日常的に外出している。 また、利用者の希望を取り入れ、車イスの方も促しながら多方面への外出を支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の保育園の花壇に草花を観に行ったり、徒歩もしくは車で買い物に出かけたり、利用者の希望を取り入れている。					
	62	○普段行けない場所への外出支援	紅葉、あじさい祭り、地域行事等に積極的に出かけ個別に冠婚葬祭には家族の支援とホームでの送迎等が出かけたり受診時は家族と一緒に出かける機会をつくり取り組んでいる。					
		一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している	利用者の家族と一緒に外出（温泉）に連れて行ってくれたり、外食を楽しんだり、家族と共に出かける機会を設けている。					
	63	○電話や手紙の支援	自分でできる人は自由に。困難な人は取り次いでプライバシーに配慮を行い、書くことへの意欲の継続に取り組みながら手紙のやりとりができるように支援している。					
		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	安否の確認のため、電話番号がわかる利用者には自分でかけていただき、かけれない場合は職員が支援している。また、年賀状を作成しやりとりできるよう取り組んでいる。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援	訪問時家庭的雰囲気ですぐ自然な形で迎え、職員、入居者と一緒にお茶を飲みながら会話、入居者の家族は自由に野菜等を持ち込んだりされ馴染みの取り組みを行っている。					
		家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は職員が明るく迎え、利用者とお茶を飲みながら会話をしたりと、居心地良く家庭的な雰囲気を出せるように取り組んでいる。					
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>								
	65	○身体拘束をしないケアの実践	介護保険法の身体拘束ゼロ作戦の行為の項目等を職員は理解し介護とは何か、その人らしい暮らしを支えることは何かを基本にし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。					
		運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者、全ての職員が理解し、利用者に対する身体拘束は一切行っておらず、安全なケアを行っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	入居者の自由な暮らしを支え玄関には、夜間のみだけ鍵をかけ玄関にはチャイム、足音のない人には戸間に鈴をつけて鍵をかけないケアに取り組んでいる。  夜間以外は鍵をかけておらず利用者が外出しようとした際は付き添い、また無断外出等ないよう見守りを行っている。			日中は鍵をかけず、玄関にチャイムをつけて外出者を把握している。 また、付き添いを嫌がる方には家族の同意を得て遠くから見守り、帰宅願望のある方にはタクシー会社と連携して自宅とホーム間を往復してもらうなど対応を工夫している。	○	地域の方が通報してくれることもあり、近隣住民や関係施設等に理解と協力を求め、地域全体で利用者を支える仕組みづくりに努めてほしい。
	67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者一人ひとりの違いを尊重しさりげない介助、プライバシーな場所での礼儀、夜間対の巡視等をこまめに、鈴、ラップ等を設置、入居者一人ひとり所在、様子を把握し安全確認を行っている。  日中居室で休まっている利用者には時間をみて安全確認を行っている。夜間も定期的に巡視、確認を行っている。					
	68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて危険性の高い金属、薬剤等は保管に十分注意を図り、命に危険がない環境を整えて取り組んでいる。  基本的に注意が必要な物品は放置していないが、洗剤等、利用者が使う場合は見守りにて安全に使用している。					
	69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	運動機能の低下、薬剤の影響、認知症を考慮し、一人ひとりの状態に応じた環境整備を行って事故防止に取り組んでいる。  歩行の際は見守り、必要であれば付き添っている。食事の際はゆっくりと摂取するよう事前に声がけし、服薬もしっかりと見守りにて行い事故防止に取り組んでいる。					
	70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	消防署により救命処置の訓練等をホームで実施、地域での講習にも職員参加により急変、事故発生時の初期対応に備えながら取り組んでいる。  職員間の連絡網を作成、また救急救命の講習に参加し訓練を行っている。また急変時のマニュアルブックを常備し活用している。					
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間想定し避難訓練等を年2回実施。地域ぐるみでの避難訓練を行い、地震等のマニュアル作成、利用者を危険なく避難できるように取り組んでいる。  消防署立ち会いにて避難訓練を実施している。実際去年、水害があった際は地域の人々の協力も得られていた。			年2回の避難訓練を実施しており、運営推進会議の提言を受け、地域住民も参加して地域全体で訓練を実施している。 また、過去に水害に見舞われた経験を生かし、マニュアルを作成のうえ連絡網を整備している。	○	今後は夜間を想定した訓練の実施のほか、ヘルメットや非常食の備蓄など、利用者のさらなる安全・安心を確保するための取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時電話等で、起こり得る危険性、受診後医師からの注意等を家族に説明し家族と相談の上で行い抑圧感をかけない取り組みを行っている。 面会時、もしくは電話等で起こり得る危険性、受診後の医師からの注意事項等を家族に説明し対応策を出している。					
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に見守りの中で変化、異常等がある場合は情報を共有し早期発見に努め対応により医療関係者と連携し重度化を防ぐ努力をし健康面の支援に取り組んでいる。 バイタルサインだけでなく利用者の表情等にも注意し早期発見に努め、異常があれば速やかに受診等、対応している。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的、副作用、用量を承知し服用前後確認を何度も行い症状の変化を医療関係者との連携に努め安全な服薬管理を行っている。 受診、薬の処方後は、申し送りノートに薬の目的等を記入し職員全員が目を通して見ている。また、服薬後の症状の変化にも注意し記録している。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	十分な水分補給と食事を規則的に行い食事の工夫として繊維を多く含む食物に配慮。適度な運動、高齢者の便秘等を理解し症状を観察。医療機関への受診に心掛け取り組んでいる。 便秘予防のため、食事にヨーグルト等の乳製品を取り入れたり、定期的に散歩、体操を行っている。また水分摂取も働きかけている。					
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の力を引き出しながら口の中の汚れや、臭いが生じないように就寝前は洗浄液に義歯を入れ含嗽等の支援、出血、炎症のチェックに十分に配慮されながら取り組んでいるも昼食後は含漱のみである。 毎食後、声がけ、誘導、介助にて口腔ケアを行っている。口腔内に異常がみられた場合は速やかに歯科受診を行っている。	○	昼食後歯ブラシ等で行うよう取り組みの実践を図る。			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりメニュー作成時カロリー計算、指導を行い栄養のバランス、水分補給等配慮、夜間対も番茶を準備されながら行っている。 栄養士から指導を受け、カロリー計算、栄養バランスに配慮しながらメニューを作成、水分補給の強化を行っている。				前回調査の指摘を受け、元病院の栄養士からカロリー計算をしてもらい、メニューの作成などでも継続して指導を受けるなど改善につなげている。	

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症のマニュアル作成、研修等参加、職員、入居者全員インフルエンザの予防接種を受け掃除、手洗いに十分配慮の上で感染予防に取り組んでいる。						
		感染症に対する予防、対応のマニュアルを作成し実行している。インフルエンザの予防接種は毎年全ての利用者が行っている。						
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防の手洗い、調理用具等の衛生管理に努め新鮮な食材を用いながら取り組んでいる。						
		食材の長期保存はせず、2、3日に1回の買い物を行い、新鮮、安全な食材を提供している。調理用具も定期的に消毒、除菌を行っている。						
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>								
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>								
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表札をかけ玄関の周囲に花を植えたり一般の家庭的な雰囲気づくりを行い利用者、家族、近隣が親しみを感じ出入りが出来るような環境づくりに取り組んでいる。						
		玄関付近に草花（プランター）を置き親しみやすいよう配慮している。また、出入り口の清掃を毎日欠かさず行っている。						
29 81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に観葉物を置き廊下等には写真、造花を飾り居間にはぬいぐるみ、きんぎょ等を設置、家庭的雰囲気と季節感を入れながら不快なく過ごせるよう配慮し居心地のよい環境づくりに取り組んでいる。			玄関に観葉植物を置き、廊下には行事や日常の写真を掲示しているほか、利用者が作成した折り紙を飾り、居間の本棚には雑誌や小物を置いて落ち着いた雰囲気づくりに努めている。 また、共用空間にはソファや畳のスペースを配置し、自由にくつろげるよう配慮している。			
		全ての空間に季節感を取り入れるよう配慮し、利用者がいかに居心地良く過ごせるか工夫している。						
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、居間にはソファ設置、高齢者に対し昔し慣みの畳みを敷いたり、入居者同士が思い思いに自由にくつろぎ楽しく会話出来るよう取り組んでいる。						
		廊下の隅に長イスを設置。少し他者と離れ独りになれたり、数名で長イスに座り、窓から外を眺めて過ごせるスペースを確保している。						



外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮	家族には入居時出来るだけ新しい物でなく本人の使い慣れた物や好みの物を持参するよう説明し、家具、日常用品、装飾品等設置。本人が居心地よく過ごせる環境づくりを行っている。			居室環境は一人ひとり異なり、家具や時計、カレンダー、家族の写真などを持ち込んでおり、利用時にも説明している。 また、問題行動がある方の居室は質素であるが、試行錯誤しながら利用者にあった居室環境づくりを模索している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとってかけがえのない物を家族から教えていただき、居室に持ち込めるよう支援している。亡くなられた夫の写真を持参し毎朝ご飯を供えている利用者もいる。					
84		○換気・空調の配慮	空気の入換の必要性を職員が意識され1日の流れの中で積極的に取り組んで高齢者に合わせた冷暖房の調節を行っている。					
		気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日数回、定期的に換気を行っている。利用者居室の換気、温度調整の際は体調に気をつけて行っている。					
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>								
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり	入居者の身体機能の低下に合わせ要所にきめ細かく手すり等を設置、浴槽、便座、流し台等の使い勝手の工夫に取り組んでいる。					
		建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、風呂場等に手すりを設置。異動、誘導の際にも転倒等ないよう安全に配慮している。トイレ内、便座にも手すり設置している。					
86		○わかる力を活かした環境づくり	認知症の症状を考慮にて、廊下の写真等には、カバーを張り、壁のシミを動物等と錯覚し、混乱を招かないよう等自立して生活できる環境づくりに取り組んでいる。					
		一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの残存機能を活かし、自立度の向上につなげ、失敗、混乱のないように配慮している。					
87		○建物の外周りや空間の活用	天気の良い日はベランダに出ては園児等を見たり、楽しみの会話の場をつくり職員と草取り、園芸、水撒き、洗濯物を干したり、本人の力を発揮と安全に取り組んでいる。					
		建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日はベランダに出て隣の園児達を見たりしている。また、職員と一緒に草花に水をあげたり、洗濯物を干してくれたり活動を行っている。					

※  は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと) ①：1ユニット(すずらん) ②：2ユニット(ひまわり)	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>		①	②
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	○
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	○
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	○
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	○
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	○
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	○
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	○
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	○
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	○
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	○
98	職員は、生き活きと働いている	○	○
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症状について正しい知識を持つ環境と、介護者との関係性を大切に介護者自身が介護という仕事をどうして一人ひとりの利用者から学び発見できることの大きさを踏まえてケアを行うことの大切さ、利用者のこれまでの人生と今おかれている状況を踏まえて運営推進会議等で話し合い地域密着サービスに力を入れていきたい。家庭の延長性を活かし生活の場に取り組んで行っている事をアピールしたい。

事業所として利用者本意の視点や地域で求められている幅広い視点を取り入れプロ意識をもって高齢者の向上に挑戦している。グループホームに求められる、ゆったりとしたペースで穏やかな声でゆっくり話す、静かな生活を心地よいと感じられ満足感が得られるようスタッフ一丸となって頑張っております。